

(26) 概要版会議録

地域振興策を調査審議した「地域振興策検討委員会」の概要版会議録を参考までに添付する。

資料	頁
第 1 回会議 概要版会議録	2- (26) -1
第 2 回会議 概要版会議録	2- (26) -2
第 3 回会議 概要版会議録	2- (26) -4
第 4 回会議 概要版会議録	2- (26) -6
第 5 回会議 概要版会議録	2- (26) -8
第 6 回会議 概要版会議録	2- (26) -10
第 7 回会議 概要版会議録	2- (26) -12
第 8 回会議 概要版会議録	2- (26) -15
第 9 回会議 概要版会議録	2- (26) -17
第 10 回会議 概要版会議録	2- (26) -20

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第1回会議 議事録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第1回会議
日 時	平成27年5月24日（日） 14:35～15:15
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：8名（松崎区未選出）、事務局：3名、関係市町：3名、コンサル：2名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会資料 吉田地区同意書・基本協定書

主 た る 事 項

1. 開会

2. 委員長及び副委員長の選任

(1) 委員長に福川委員、副委員長に加藤委員、政所委員の2名が選任された。

3. 関係法規について

- (1) 附属機関条例、附属機関条例施行規則、組織細則について、事務局より説明
(2) 運営細則、専門部会要綱及び、会議傍聴遵守事項について、案のとおり承認

4. 今後のスケジュールについて（地域振興策検討委員会）

- (1) 資料中④先進地の視察は、7月上旬を予定。場所、日時は委員のご意見も伺いつつ検討する。
(2) 資料中⑤建設候補地周辺住民意見交換会の日程について、第1回を27年9月5日、第2回を28年2月6日に変更
(3) 資料中⑤建設候補地周辺住民意見交換会の対象となる周辺住民は、吉田区及び松崎区であることを確認

5. 会議の運営について

- (1) 本会議の関連資料については、委員の希望を確認した上で、①紙媒体（印刷物の郵送）、②電子媒体（メール添付）、③紙媒体及び電子媒体の両方のどれかにより配布することを確認
(2) 会議録については、会議終了後10日前後を目処に発言録を委員に配布。概要版はそれ以前に準備でき次第配布することを確認

6. その他

- (1) 次回検討会は、午前中に現地調査を行い、昼食をはさみ午後から開催する。
(2) 次回検討会の議事次第に、吉田地区で行われた地域振興策についてのブレインストーミングの内容に関する説明を加える。
(3) 諮問事項に関し、議論の土台となる資料は事務局で作成し、事前配布を行うが、内容の検討は会議の場での議論を中心とする。次回検討会では、答申までの段取りのイメージを説明する。
(4) 本日の会議録の署名は、加藤委員、黒須委員が行う。
(5) 閉会后に委員の集合写真の撮影を行う。

7. 閉会

※ 傍聴者：なし

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第2回会議 議事録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第2回会議
日 時	平成27年6月28日（日） 13:00～16:00
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：7名（欠席1名、松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：4名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第2回会議資料、地域振興策に関する委員意見書

主 た る 事 項

1. 開会
2. 会議録について（第1回会議）
 - (1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第1回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。
3. 施設整備基本計画検討委員会第1回会議の報告について
 - (1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第1回及び第2回会議の概要について、事務局より説明。
4. 意見書について
 - (1) 渡邊委員から提出された意見書について、事務局より説明。
 - (2) 本検討委員会以前に提出された地域振興策に関する意見書及び本検討委員以外の意見書については、個別に審議せず、関係する議題の審議の際に、貴重な資料として活用する。
 - (3) 本検討委員からの意見書については、関係する議題の審議の際に、必要に応じて提出委員が内容説明を行う。
5. 地域振興策の検討ポイントについて【事務局より説明】
 - (1) 地域に求められる将来像
 - ・今後の議論において、資料P3に掲げられている将来像を念頭に置き、補足・修正等を行う。
 - ・資料P3(1)「誇り」→「誇り」と「持続可能性」を追加する。
 - (2) 地域の課題
 - ・資料P15の課題項目について、可能な範囲で裏付けデータを整理し、議論する。
 - ・課題項目(3)「公共交通の不足」を「インフラの不足」と変更し、括弧書きにより上下水道、道路整備等を網羅する形にする。
 - ・景観上の対策として「土地利用のコントロール」を課題項目として追加する。
6. 地域振興策の検討スケジュールについて【コンサルタントより説明】
 - (1) 資料中P37、9月5日の意見交換会（第1回）については、地域振興策のパッケージ（案）を示した上で行うことが必要と考えるため、意見交換会の日程を遅らせるか、第4回会議（8月30日予定）までにパッケージ（案）を纏めるか、次回、第3回会議における審議の進捗により検討する。

7. 地域振興策に関する吉田区のブレインストーミング結果について【大谷委員より説明】

- (1) 吉田区から自由なアイデア出しにより抽出された地域振興策を紹介。
- (2) 吉田区ってどんなところ？（吉田区の特徴や地域が抱える問題を紹介。）
- (3) 建設候補地の敷地内／外、事業主体が官／民、単独／広域連携等の条件は無視し、環境学習や防災機能以外にも、地域振興策に寄与する事業・アイデアは地域振興策検討委員会の対象とすることを確認した。
- (4) 地域振興策に関する吉田区のアイデアを積極的に取り入れるとともに、事業運営を吉田区が主体的に行う前提で地域振興策を検討することを確認した。
- (5) 今後も、地域振興策の事業費に上限がない前提で、自由に議論を行うが、答申した内容すべてが実現できるとは限らないとの事務局説明を受ける。

8. 閉会

※ 傍聴者：1名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第3回会議 議事録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第3回会議
日 時	平成27年7月26日（日） 13:00～16:00
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：8名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第3回会議資料、地域振興策に関する委員意見書ほか

主 たる 事 項

1. 開会

会議録署名は政所副委員長と小野委員を指名。

2. 会議録について（第2回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第2回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

3. 施設整備基本計画検討委員会第3回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第3回会議の概要について、事務局より説明。

4. 意見書について

(1) 渡邊委員から提出された意見書（第3回会議資料（案）に対する意見）について、委員本人より概要説明。

(2) 当日配付された大谷委員からの意見書（吉田区の課題と解決策）については、議事の8で委員本人により説明。

5. 地域に求められる将来像（再審議）について

(1) 前回議事「地域に求められる将来像」の修正点として、「持続可能性」が計られること。を項目として追加。【事務局より説明】

6. 地域の課題（再審議）について 【(1)、(2)事務局、(3)コンサルタントより説明】

(1) 前回議事「地域の課題」の修正点として、課題項目(3)「公共交通の不足」を「インフラの不足」と変更し、括弧書きにより上下水道・道路・公共交通を網羅する形にする。【事務局より説明】

(2) 景観上の対策として「土地利用のコントロール」を課題項目(6)として追加。【事務局より説明】

(3) 課題項目ごとに裏付けデータを作成し追加資料とした。【コンサルタントより説明】

7. 地域振興策のイメージ図について

(1) 地域振興策の全体的なイメージを掴むため、本体施設を中心に置き、各地域振興策を類型ごとに8つに分類したものを、展開する地域振興策を総合パッケージとして表したイメージ図により説明。【事務局より説明】

8. 地域振興策のアイデア（議事9と一括審議）

9. 吉田区の課題と解決案について

※議事8・9は関連性があることから委員長判断により一括審議となる。

※「地域振興策のアイデアについて」の資料について事務局より説明。

※「吉田区の課題と解決案」、大谷委員からの意見書「振興策視察候補提案」、「吉田区の課題（農業振興）」について委員本人から説明。

(1) アイデアリストについて

- ・地域振興策を進めるにあたっては、周辺の地形や自然との調和を図り、空間特性に応じて環境面にも配慮するということが冒頭に記載することを確認。
- ・前提条件として、吉田地区は現時点では建設候補地であり、本検討会で提示する地域振興策によって吉田地区からの合意を得ることを目指すものである。また、吉田地区のメリットを模索しつつも、印西市民にも賛同を得られるようなバランスが重要である。

(2) 里山の価値について

- ・吉田地区の里山景観は、保全すべき価値があることに揺るぎはないが、他地域と比較して優位な観光資源として価値があるかということとは別の問題である。観光資源として打ち出すには手の込んだ施策を打つ必要があるが、その決断をするかというところから考える必要がある。
- ・環境学習だけでは収益につながらない。温水利用を中心として、意欲ある若者層を地域の高齢者層がサポートしていくような事業経営の観点と、それを里山保全につなげていく観点が必要である。

(3) 農業振興について

- ・朝採れ野菜の直売場を設置するのであれば、市場競争力が低いものを集めるなど、端境期に直売場が空にならないような工夫等が必要。経営の安定化に5～10年かかるので、早めに手を打つべきである。
- ・農業振興には、大規模集積・企業化する方向だけでなく、クラインガルテンを活用した高級住宅地としてブランド化する方向、公園管理の一貫として菜園と散策路を組み合わせる観光資源とする方向などが考えられる。地域特性を加味して方向性を検討していくことが必要。

10. 先進地の視察について

- ・時間の都合上、次回以降に審議。

11. その他

- ・次回（第4回）会議の日程については、8月30日（日）13:00から印西クリーンセンターにて開催。

12. 閉会

※ 傍聴者 : 2名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第4回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第4回会議
日 時	平成27年8月30日（日） 13:00～15:40
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：7名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：4名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第4回会議資料、地域振興策に関する委員意見書ほか

主 たる 事 項

1. 開会

会議録署名は加藤副委員長と齋藤委員を指名。

2. 会議録について（第3回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第3回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

3. 施設整備基本計画検討委員会第4回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第4回会議の概要について、事務局より説明。

※リサイクル品の販売にはリユースも含まれることを確認し、施設整備検討委員会において表現の検討を提案。

4. 意見書について（次第5と関連させて説明）

5. 地域振興策のアイデア（再審議）

- (1) 各地域振興策のアイデア P2以降の表欄に「収益性」を追加。
- (2) 概要欄などの記述内容を追加及び精査。
- (3) 地域に求められる将来像に合致しないものや他のアイデアと統合できる地域振興策については廃案。
- (4) 6-12U ターン・I ターン助成、6-13 可搬式蓄電池を項目に追加。
- (5) 用語集の拡充
- (6) 渡邊委員から提出された意見書「里地里山の重要性と保全上の課題」と「第4回委員会に向けての意見と事務局への調査依頼」について、委員本人より概要説明。
- (7) 大谷委員から提出された意見書「地域振興策評価シート」、また、当日配付された意見書「よしだスコーラ（提案）」について、委員本人より概要説明。
※「よしだスコーラ」については、単なる環境学習ではなく、より幅広い活動に活用する拠点であるとよい。

6. 地域振興策の総合パッケージ（案）について

- (1) 資料及び参考資料については、事務局より説明。
- (2) 2-7 贈答米については、贈答に関わらず幅広く捉え、ネーミングや内容を再検討。
- (3) 地元特産（贈答米・野菜など）になるようなものを考えることで、ふるさと納税の産品となる。
- (4) 「地域振興策の総合パッケージ（案）のイメージ図」に6つ目の項目として、7-2 防災拠点化構想を追記。また、③余暇・交流・イベントに「観光」を追記。
- (5) 地域振興策が道の駅を造るための事業になることがないように留意しながら審議を進めることを確認。
- (6) 委員会として案を提案し、地元住民からの意見を踏まえブラッシュアップしていく計画で、その中で住民との齟齬がないように進めていくことを確認。

7. 航空写真を用いて審議

(事務局の説明に沿って、個別の地域振興策のプレートを配置)

●意見

- (1) アクセス道路をどうするかは重要。
- (2) ばらばらにある地域振興策を大きな構想で整備。
※「建物」という意味だけではなく「有形、無形のものを束ねられる機能」としてネーミングを一体化する。
- (3) 効果は直接効果だけの評価では駄目で、コンセプトに沿った体験施設等があるから効果が上がるという視点も必要で、直接効果があるものとなないものを並列するのはよくない。
- (4) 事業の初めは強いリーダーシップを持った人が必要。
- (5) 機能として全体構想に『スコラ』を含める方向で検討。
- (6) 廃案の振興策は「地域振興のアイデア」の表から削除。
- (7) 意見交換会には展開場所別にまとめるのではなく、ミュージアム構想のように大きく括って、場所は新施設展開場所と里地里山を含む集落の2つでまとめる。
※考え方
①コンセプト→②ゾーニング→③ゾーンの基本方針→④施設→⑤動線計画→⑥事業方針の流れが基本であり、現状では①～③でまとめる。
- (8) 関係市町との協議は具体的な話になる次の段階であることを確認。

8. その他

- (1) 先進地視察は第5回会議で審議。
- (2) 9月13日に行う第5回施設整備検討委員会への報告について、地域振興策へ供給可能エネルギーバランスについて審議するための地域振興策のリストを9月5日の意見交換会後に整理し報告する。
- (3) 9月5日(土)の意見交換会は当初予定になかった松崎区も14時から実施。
- (4) 第5回会議9月27日(日)13:00から開催。

9. 閉会

※ 傍聴者 : 1名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第5回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第5回会議
日 時	平成27年9月27日（日） 13:00～15:00
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：7名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第5回会議資料、地域振興策に関する委員意見書ほか

主 たる 事 項

1. 開会

会議録署名は黒須委員と渡邊委員を指名。

2. 会議録について（第4回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第4回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

3. 施設整備基本計画検討委員会第5回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第5回会議の概要について、事務局より説明。

4. 建設候補地周辺住民意見交換会の報告について【事務局より説明】

- (1) 出席された施設整備検討委員会の学識経験委員（大迫委員長、河邊副委員長）の総評を報告。
- (2) 全文会議録は作成後に委員へ送付するが、質疑応答も含め一般への公表は行わない。
- (3) 意見交換会の松崎区の状況について、区の評議会では意見交換会の報告は行われたが委員選出には至っていない。

5. 地域振興策に関する意見書について

(1) 事務局より概要の説明があり、該当する次第の中で審議することとなった。

6. 地域振興策総合パッケージの概要（中間決定案）について【(1)(2)事務局説明(3)各委員意見】

- (1) 総合パッケージについては、中間決定案で一旦固めるが、本日および今後の会議や意見書で出されたアイデアなどの審議を個別に進め、第9回会議（H28.1.24 開催予定）で最終調整を行っていただくことが了承された。
- (2) 下水道整備に関しては、下水に限定せず、合併浄化槽等の表現も付記することで了承された。
- (3) その他の修正の方向性として以下の意見が出された。

[地域振興策総合パッケージの概要（中間決定案） p.1 の全体概要について]

- ① 展開場所ごとという考え方もあるが、シナリオやコンセプトがないと理解しづらい。個別・具体的な振興策とは別に、吉田区をどうしたいかのビジョン作りが必要。マスタープランとなるような表現が必要。（黒須委員）
- ② 狙い・理念を上位に掲げ、目的や理由が明確となるようにすべき。（福川委員長）
- ③ 全体構想では、「地域“を”まるごと・・・」ではなく、「地域まるごと・・・」のニュアンス。（福川委員長）
- ④ 台地での地域振興と集落との連携を深めていくという方向性を書き込みたい。（加藤副委員長）
- ⑤ 集落での展開は、インフラ整備だけではなく縁側カフェ等賑わいの創出もあるので、表現を工夫されたい。「持続・再生・活性化を支えるインフラ整備」等。（加藤副委員長）

- ⑥「自然公園的整備」では、文化的な要素を含む意図が伝わらないため、「フィールドミュージアム整備」などの表記が望ましい。(渡邊委員)
- ⑦吉田区で培われてきた、自助努力の精神やコミュニティの伝統を残すというニュアンスを入れたい。(渡邊委員)
- ⑧総合パッケージについて時間軸の概念を入れるべき。(小野委員)
[地域振興策のアイデア(全94策)p.2~の具体的な地域振興策について]
- ①参考資料として、松崎区も含めた地域の概況(特に農業生産等)を提示されたい。(渡邊委員)
- ②道の駅に宿泊機能を付けると24時間職員が必要になるが、それに地元でも対応が可能か懸念している。(加藤副委員長)
- ③道の駅の狙いに、「高齢者の活性化」や「コミュニケーションの創出」を入れるべき。(渡邊委員)
- ④「リサイクル(リユース)」ではなく、「リユース・リサイクル」とすべき。(渡邊委員)
- ⑤企業米では「企業の社会貢献」をアピールすべき。(渡邊委員)

7. 地域振興策の事業スキームについて【事務局より説明】

- (1) 道の駅に関して、設置者である公共側が、運営にどこまで関わるか現時点では決まっていない。今後の地元住民との協議によるが、本検討会は基本構想レベルの検討との位置づけであるため、現時点ではこの程度の表現に留めることとする。
- (2) 基本的には官設民営で、地元は建設コストの負担金は負わず、運営で利益を上げていくことを考える必要がある。その中でのメリットが熱利用である。
- (3) 現時点で詳細な事業スキームを検討する意味はないので、今回の資料程度の検討とし、今後は事業費や法的課題等について検討する。

8. 地域振興策の展開スケジュールについて【事務局より説明、(1)委員意見】

- (1) ふれあいバス路線の延伸は、松崎吉田線が開通したらすぐに運行してもらいたいことを検討されたい。(大谷委員)

9. 先進地視察について【事務局より説明】

- (1) 平日実施になることを確認。(渡邊委員は水曜日の対応は不可。)
- (2) 基本的には道の駅より、収益事業として参考になる視察先を検討する。
- (3) 地元住民が視察したい施設に行くべきとの意見から、組合と地元住民で調整していくこと了承。

10. その他

- ・第6回検討会 10月25日(日)13:00から開催。

11. 閉会

※ 傍聴者 : 2名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第6回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第6回会議
日 時	平成27年10月25日（日） 13:00～15:30
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：5名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第6回会議資料、地域振興策に関する委員意見書ほか

主 た る 事 項

1. 開会

会議録署名は小野委員と大谷委員を指名。

2. 会議録について（第5回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第5回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

※全文会議録 P12 について、「農村集落排水」との発言を「農業集落排水」に訂正。

3. 施設整備基本計画検討委員会第6回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第6回会議の概要について、事務局より説明。

(2) 参考資料-1「施設整備基本計画検討委員会第6回会議資料（一部抜粋）」について、コンサルタントより説明。

①処理方式の選定については、特に意見等なし。

②エネルギーバランスについて

・1炉、2炉と停止した時の熱供給はどうなるのか。（黒須委員）

⇒全停止期間中は直接の熱供給は無い。ただし、稼働期間中に蓄熱等を行えば、その範囲での供給は考えられる。

・災害拠点として考える場合は、全量発電できる設備を整備することも検討されたい。（大谷委員）

⇒熱エネルギーから発電にまわす割合については検討中であるため、次回の施設整備検討委員会には、本日の概要版会議録に説明を加え提出する。

(3) 大谷委員からの意見書「エネルギーバランスについての質問と考察」について、事務局及びコンサルタントから説明。

・2炉運転時、全量発電にまわす事は可能か。

⇒技術的に全て発電にまわす事は可能で、計算上 52.15GJ/h のエネルギーの発電量は 4,300kw/h になる。

・補助ボイラーの考え方について。

⇒バックアップについては、一括整備の方が効率的であると考えられるが、段階的に整備される事業もあるため、一括整備がよいかは現時点では判断できず、発注段階までに精査できればと考える。

・熱媒体4種の典型的温度は。

⇒熱媒体の温度域は、低温水：40～50℃程度、温水：50～80℃、高温水：高圧で130℃、蒸気：100℃以上の高温。

(4) 排ガスの基準値について

・排ガス基準値については、ランニングコスト等の経済性も考慮し、近隣の他施設の値等も踏まえて、前回計画と同程度としてもよいのではないか。(渡邊委員)

⇒施設整備基本計画において既に了承されている内容であるため、地域振興策検討委員会からの意見として会議録に記録する取り扱いとなる。

・八千代市や船橋市の住民からクレームはないか。(小野委員)

⇒把握していない。

・一般的に操業時に基準値を超える異常が発生した場合の対応はどうなっているか。(黒須委員)

⇒自主規制値の一段厳しい目標値を定め、目標値と基準値の間で運用し、安定的に規制値を守るようにしている。

4. 地域振興策に関する意見書について (大谷委員より概要説明)

①吉田ゲストハウス ②吉田マリーナ ③オンデマンド交通システム

(各委員からの意見)

・吉田ゲストハウスは、関係2市1町の住民も利用できるよう考えてほしい。

・吉田ゲストハウスは、無料ではなく多少の利用料を徴収してもよいのではないか。旅館法等の確認も必要。

・地区計画制度を上手く活用し、計画的に進めることで振興策の実施について、都市計画法で認めてもらうことが必要。その際には行政のバックアップが不可欠である。

・県や市との連携が必要になる振興策もあり、都市計画等と整合を図っていく必要がある。

・宿泊やマリーナなど、振興策ごとの個別対応では限界があり、特区制度等による全体的な網掛けが有効である。

・吉田マリーナ候補地は、広域的な水辺のレクリエーション拠点としても重要な場所。レクリエーションを含めた地域計画により、合理性も認められるようにしていくべき。

・吉田区内はふれあいバスが運行していないため、買い物バスを区で独自に運行させている。今後高齢化が進むことで、外出先ニーズが「買い物」から「医療機関」などへと変化することが予想される。希望予約時間で対応可能なオンデマンド交通システムの必要性が考えられる。

・吉田区がフォーカスされるよう、現在、印西市で策定中の総合計画第2次基本計画(H28-32)に書き込んでいくための働きかけが必要。

・本検討会も県や市の計画を考慮していることを文言として答申書に記載されたい。

⇒今後の審議で決定した事項を答申書の中に盛り込んでいく。

・意見書として出された地域振興策のアイデアについても、パッケージの中に追加することが了承された。

5. 今後の調査審議事項について (事務局より概要説明)

(1) 今後の検討委員会では、事業規模と概算事業費の算出を除く、基本構想のみを審議することが了承された。

6. その他

(1) 第7回検討会 11月29日(日) 13:00から開催。

7. 閉会

※ 傍聴者 : 2名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第7回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第7回会議
日 時	平成27年11月29日（日） 13:00～15:40
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：7名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第7回会議資料、地域振興策に関する委員意見書ほか

主 た る 事 項

1. 開会

会議録署名は黒須委員と齋藤委員を指名。

2. 会議録について（第6回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第6回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

※全文会議録 P17 最後の行について、「立場」との発言を「納税者と環境行政経験者の立場」に訂正。

3. 施設整備基本計画検討委員会第7回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第7回会議の概要について、事務局より説明。

(2) 参考資料-1「施設整備基本計画検討委員会第7回会議資料（一部抜粋）」について、コンサルタントより説明。

①エネルギーバランスについて

・ケース1（熱供給最大）とケース2（発電最大）ではエネルギーの回収形態の違いにより、回収効率に差が生じるため、エネルギーの数値が異なる。

②災害時に廃棄物処理施設に求められる機能

・特に意見なし。

4. 地域振興策に関する意見書について【参考資料-2】

(1) 発電と余熱利用の関係について（白井市及び印西市の住民3名による連名提出）

・事務局より説明報告。

(2) エネルギーバランスについて（大谷委員からの意見書）

・提案内容については、施設整備検討委員会へも提出願いたい。（大谷委員）

・千葉ニュータウン熱供給区域での供給内容・条件を確認し次回会議で報告する。（事務局）

(3) 松崎地区から「次期中間処理施設整備事業」両委員会への速やかな参加のお願い

（渡邊委員からの意見書）

・意見書2.（4）5行目、「つまり・・・」以下を訂正⇒「つまり第三者にわかりやすい理由がない状況、状態で・・・」（渡邊委員）

5. 地域振興策の概略事業スキームについて（再審議）

（事務局より概要説明の後、コンサルから詳細説明）

i 複合施設（道の駅的機能）

- ・総評における「×or ○」は、どういう状況であつたら「×or ○」になるのかといったように、わかりやすく再考されたい。
- ・各方式の具体例（成功例等）を追加されたい。

ii 排熱利用事業

- ・第三セクター方式による実施もあり得るのではないか。
⇒ 第三セクター方式についても追記し作成する。

iii インフラ（集落内における道路整備等）

- ・意見なし。

iv フィールドミュージアム（自然公園的整備）

- ・財団法人による運営もあり得るのではないか。
- ・事業スキームについては少し幅を持たせることで、後に選択が可能となるよう設定されたい。
- ・将来的にはフィールドミュージアムとして2市1町の財産としていく視点が必要。
- ・i 複合施設、ii 排熱利用事業、iii インフラ、iv フィールドミュージアムでは並列の評価は出来ないので、分けて議論すべき。
⇒ i 複合施設からiv フィールドミュージアムのどれかだけを実施するわけではない。これまでの意見を踏まえ、再整理したものを提示し確認いただく。

6. 地域振興策総合パッケージの展開種別毎の評価（様式）について

（事務局より概要説明）

- ・展開種別 A「インフラ整備を中心に展開」、B「集客等を目的とした複合施設を中心に展開」、C「排熱等の周辺利用及び外部供給を中心に展開」のどれかのみ行う訳ではないので、標題から「中心に展開」を削除する。
- ・地域が主体となる点の評価は、⑦経済性、⑧中長期的な発展性、⑨課題の記載で工夫する。
- ・B「集客等を目的・・・」の“等”に含まれる賑わいや収益を「集客・賑わい・収益を目的・・・」と区切って表現するように再考する。
- ・Cの排熱等の利用に関しては、振興事業と防災拠点としての観点がある。ここでは、収益に直結するようなことをイメージしているため、振興事業の取り組みがメインとなるが、評価の中で、防災についての表現も工夫する。
- ・評価項目「②地域に求められる将来像との合致」と「④地域の課題への波及効果」の各小項目は重要度の順番に並べ替えを再考されたい。
- ・吉田区の課題の中で、少子高齢化の進行により人口が減少していくことへの懸念が示されており、ただ集客や就労を増やすだけでは問題は改善されない。人口の維持増進、居住の場といった評価ができるよう地区計画に関する項目を追加されたい。
- ・時間軸（短期・中期・長期）が大切であるため、評価項目に含めていただきたい。
⇒ 第5回会議資料「地域振興策の展開スケジュール」を参照とする。

7. その他

(1)候補地の土地に関して、吉田区と組合が整備協定書を締結した後、円滑な土地売買手続きを確保するために、合意と財産を法律的に保全することが必要と考える。そのため、土地信託の活用を検討されたい。

⇒本検討委員会とは直接関係がないため、組合と個別に打合せを実施する。

(2) 第8回検討会 12月20日（日）13：00 から開催。

8. 閉会

※ 傍聴者 : 4名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第8回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第8回会議
日 時	平成27年12月20日（日） 13:00～15:40
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：7名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第8回会議資料、地域振興策に関する委員意見書ほか

主 た る 事 項

1. 開会

会議録署名は加藤副委員長と渡邊委員を指名。

2. 会議録について（第7回会議）

- (1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第7回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

3. 施設整備基本計画検討委員会第8回会議の報告について

- (1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第8回会議の概要について、事務局より説明。
- (2) ごみの搬入ルートについては、1本とすることが前提のように見受けられるが、災害時対応等を考慮すると、2方向以上のルートを確保する必要があるのではないかと。また、土砂災害の危険性のあるルートの評価が低いと、崖地に既存家屋が接近し、家屋に土砂災害の危険性があるエリアという意味ならば（他のルートにも崖地があるので）ルートの評価としてどうか。
⇒ご意見として承り、施設整備検討委員会へ報告する。
- (3) 地域振興関連施設へのアクセス道については、施設整備側とは別に検討されたい。
⇒現時点では、地域振興策を展開する場や規模など、具体的なことが決まっていないため、アクセス道についても検討はできない。具体的には、来年度、地元と組合との協議により決めることとなる。

4. 地域振興策に関する意見書について【参考資料-1】

- (1) 発電と余熱利用の関係について

・事務局より説明報告。

5. 地域振興策の未来像について

- ※ 福川委員長と加藤副委員長から、これまでに、ご自身が関わられた取り組みや事例の紹介と共に、今後の地域振興策の実現へ向けた考え方が示された。）
- ・福川委員長：高松における「まちのシューレ 963」を参考とした再開発の事例について
 - ・加藤副委員長：道の駅が有すべき機能と、道の駅を活用した地域振興の展望について

6. 地域振興策総合パッケージの展開種別毎の評価について

- (1) 展開種別 A（インフラ整備）について、快適な生活に資するという意味で総合的に地域振興に関わるため、もう少し評価を高めるように再考されたい。

- (2) 展開種別B（多機能な複合施設）について、直売所等での住民同士の交流など、地域コミュニティとしての観点から評価に組み込むことを検討されたい。
- (3) オーナー制度の水田や交通弱者対策等、いくつか振興策が抜けているので追加願いたい。
- (4) 展開種別D（里地里山の保全）に関することが分かりやすいように、表現を再考されたい。
例) 会議資料P2の(2)D中の「・・・発見及び余暇など・・・」の“余暇”をボランティア（間伐・下刈り）などとしてはどうか。
- (5) 表現を統一願いたい。例) “里山”を里地里山。
- (6) P5の(7)中、“・・・持続可能性に貢献する。”を・・・持続可能性の象徴である。との表現に高めることを検討されたい。
- (7) P7の(4)Dの評価を×から△緩衝機能があるとされたい。
⇒「展開種別毎の評価」については、個別の振興策の評価を行うものではなく、分類別に幅広く評価した資料である。本日の意見から、総括での評価・記述内容も含めて再考し、次回会議で提示する。
- (8) 参考資料-2中の専門用語（DBO、PFI、SPC）について説明されたい。
⇒（コンサルタント説明）
- ①DBO（^{デザイン} Design ^{ビルド} Build ^{オペレート} Operate）：公共所有のもとで、公共が資金調達を行い、設計、建設、運営維持管理を民間事業者に委託する方式のこと。この資料では公設民営を意味する。
- ②PFI（^{プライベート} Private ^{ファイナンス} Finance ^{イニシアチブ} Initiative）：公共施設等を民間の施設として、民間が資金調達を行い、民間のノウハウで設計、建設、運営維持管理を行い、方式によっては民間から公共に所有権が移転する手法のこと。この資料では民設民営を意味する。
- ③SPC（^{スペシャル} Special ^{パーパス} Purpose ^{カンパニー} Company）：特別目的会社。ある特別の事業を行うために設立された事業会社のこと。実施する事業を限定した会社で、その他の事業展開はできない。
⇒専門的な用語に関しては、用語集に追記し提示する。
- (9) 地域振興策の展開を検討すべき場所や範囲を示す必要があるのではないか。
⇒本検討委員会では、基本構想レベルの評価であり、用地確保に関しては具体的に審議していない段階である。そのため、場所や範囲を示すことは難しい。
- (10) パッケージの振興策で、実施主体を整理しなければ市や組合等との役割分担がわかりにくい。
⇒これまでの資料をベースに整理し提出する。
- (11) P9の7 Bにも記されている「マリーナ構想」とはどのくらいの規模を想定しているのか。マリーナという表現から大規模なものが想定されるが、印旛沼や新川の水深を考えると「船着き場」といったイメージなのか。場合によっては表現を変えたほうがよいのではないか。
⇒吉田区の思いもあるため、マリーナとの表現でもよいとは思いますが、再度、検討する。

7. その他

- (1) 先進地視察は平成28年2月実施の予定であることを報告。視察先と調整の上、日時は改めて案内する。
- (2) 第9回検討会1月24日（日）13:00から開催。

8. 閉会

※ 傍聴者：0名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第9回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第9回会議
日 時	平成28年1月24日（日） 13:00～15:40
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：6名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第9回会議資料ほか

主 た る 事 項

1. 開会

会議録署名は黒須委員と小野委員を指名。

2. 会議録について（第8回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第8回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

3. 施設整備基本計画検討委員会第9回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第9回会議の概要について、事務局より説明。

(2) 建設候補地の造成計画で掘り下げを行うことになると、残土が発生するため、地域振興策の整備と絡めて、その利用先も検討する必要があるのではないか。

⇒地域振興策の具体化と合わせ検討していくこととなるため、留意事項として基本計画にも明記する。

(3) 林地を切り開くアクセスルート案があるが、周辺整備などに影響を及ぼすため、土地利用の考え方をお聞きしたい。

⇒検討委員会の中で示された、想定される複数ルート案の一つではあるが、現時点では決定しているものではない。今後、地域振興策との関係や次期施設の配置計画、整備費等の様々な観点から検討していく。

4. 地域振興策に関する意見書について

意見書の提出なし。

5. 地域振興策（案）について

（事務局とコンサルより、目次構成ごとに本編・資料編の概要説明）

【本編】

①はじめに～（1）本案概要

(1) 吉田区に限定した地域振興策ではなく、2市1町全体に波及するまちづくりへのきっかけにしようとするつもりで、第三者を含む委員会で議論していることを、資料に明記されたい。

⇒委員長あいさつ文「はじめに」の中で、検討委員会における地域振興策の基本的な考え方に関しても触れるか、P9の「3.その他、地域振興策において必要と認められる事項に関すること」

で“③地域振興策を展開する場所について”を“①地域振興策の目的と展開する場所”とし、番号を繰り上げ、内容の変更については、事務局と委員長で検討する。

(2) 資料編の目次構成の(6)建設候補地の選定結果(写)と(7)吉田区の同意書(写)の順番を時系列に合わせ、入れ替える。

② (2)地域振興策アイデアリスト

(1) 理念・目的に関して“ソフト施策”には持続性が求められるため、“持続可能な(または、持続できる)ソフト施策”と変更する。

(2) 一般的に浸透されていない横文字用語の使用は避けるべき。“レジリエンス”については、“柔軟性”や“しなやかさ”といった、適切な日本語への変更を検討する。

(3) インフラ整備に関しては、場当たりの住民要望の箇所のみを整備したのでは意味が無く、地域における全体的な計画を検討する必要がある。

⇒供用開始時期の内容を“・・・整備協定書の締結後、速やかに整備・・・”を“・・・整備協定書の締結後、地域計画等を協議した上で、速やかに整備・・・”のように総論的に変更する。

(4) 個別アイデア番号3「管理負担の大きい印西市道の付け替え」については、廃道にせず、管理や改良を行うことで、各地域振興策へのアクセス道として活用することも検討されたい。

⇒概要欄に活用の可能性について追記する。

(5) 個別アイデア番号13「マリーナ構想」については、新川周辺の開発計画を踏まえ、実現可能性についても記載すべき。

⇒現地の状況を踏まえた実現可能性については、他のアイデアについても同様であるが、基本構想レベルであることから、次の段階で検討となる。

(6) 個別アイデア番号36「環境図書室」については、概要欄①の“生物多様性・生態系、地球温暖化(気候変動)、持続可能性、廃棄物(特に3R活動)など”とし、わかりやすく内容を検討されたい。

(7) 個別アイデア番号38「サイクル駐輪場」については、自転車愛好家で賑わうことで、カフェ等の利用に波及することが資料からは読み取りづらい。

⇒狙い欄Bに()で、波及効果について追記する。

③ 地域振興策の概略事業スキーム

意見なし。

④ (4)地域振興策の展開スケジュール

(1) 平成28年度以降も、持続的に検討できる体制について触れておくべき。

⇒平成28年度以降の体制については、組合議会の議決等も必要になることから、答申を基礎資料として協議していく中で、今後、検討することとしたい。

(2) 各地域振興策の基本計画は個別に策定するのか。

⇒多機能な複合施設を一体的に整備することになれば、一括して計画を策定することになる。

⑤ (5)地域振興策の展開種別毎の評価

(1) 都心の近くに里地里山が維持されていることが魅力であるため、P73のD4(6)とP81のD13の“都市化が・・・”を“都心にも近く、都市化が・・・”へ変更されたい。

(2) 土地利用のコントロールに関して、土地信託等すぐに対策に取り組めることもあるため検討されたい。

⇒具体的なことを意見書として提出していただき、意見書集へ組み込む。

(3) A の「9.経済性」“①効果に対して高額な下水道整備費用”については「合併処理浄化槽も視野に入れる」ことを記載しておくべきではないか。

⇒アイデアの No.2 において、「合理的な選択肢として、合併処理浄化槽についても検討」と記載していることで代える。

(4) B の「12.その他」“③高齢者のいきがいを支援”については、高齢者だけでなく幅広い年齢層の交流も期待できることから、内容を検討されたい。

⇒“タイトル③を「いきがいの支援」または「コミュニティの活性化」と変更し、文中から“高齢者”を“周辺住民”に変更。また、“新たな出会い”を“幅広い年齢層の新たな出会い”に変更。

(5) 評価表は先に結論が示されるように構成の順番を変更する。評価項目等の「3.該当する地域振興策」の後に「13.総括」を繰り上げ、「11.課題」を最後の評価項目とする。

【資料編】

(1) 資料(22)排熱利用事業者へのアンケート結果から、植物工場事業者は廉価な排熱供給を事業展開における相当なメリットとは感じておらず、事業展開のためには「栽培技術の確立」と「供給先の確保」が重要と認識している。

6. その他

(1) 2月1日からのパブリックコメントを実施予定。

(2) 第9回会議の意見を反映した資料修正を事務局で行い、委員長と副委員長の確認をいただいでからパブリックコメントを実施することで了承。修正資料については、パブリックコメント前に各委員へも示す。

7. 閉会

※ 傍聴者 : 1名

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会第10回会議 会議録（概要版）**

議 題	地域振興策検討委員会第10回会議
日 時	平成28年3月27日（日） 13:00～14:10
場 所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室
出席者	委員：6名（松崎区未選出）、事務局：6名、関係市町：3名、 コンサル：4名
配付資料	印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会 第10回会議資料ほか

主 た る 事 項

1. 開会

会議録署名は加藤副委員長と齋藤委員を指名。

2. 会議録について（第9回会議）

- (1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第9回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

3. 施設整備基本計画検討委員会第10回会議の報告について

- (1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第10回会議の概要について、事務局より説明。

4. 地域振興策に関する意見書について

意見書の提出なし。

5. 答申書（案）について

- (1) 答申書（案）について、事務局より説明。（収益事業の検討はコンサルより説明）
- (2) 委員長挨拶文の「はじめに」の記述について、これまでの検討経緯からすると、「暮らしやすく快適なまち」は「暮らしやすく持続できる快適なまち」としたほうが良い。
⇒意見のとおり修正。
- (3) 1-(3)-16ページの環境図書室の概要欄について、「廃棄物（特に3R）」は「循環型社会・廃棄物（特に3R）」としたほうが、当検討委員会として相応しい表現になる。
⇒意見のとおり修正。

6. その他（委員挨拶から要点抜粋）

- (1) 現状の相続制度や農業経営の実態からすると、今後、里地里山の地権者が拡散し、資材置き場等のバックヤード的な土地利用に移行するのが目に見えていることから、里地里山の良好な景観と機能を維持すべく、地権者組合などを設立し、権利を集約した上で里地里山を維持・管理・活用する仕組み作りが求められる。この点は、建設候補地の用地にも当てはまることなので、専門家のアイデアを活用するなどし、地権者をサポートしてあげることが必要だと思う。

- (2) 思いもよらぬ所有権の移転や、相続による権利者の拡散は、他の公共事業でも問題となったケースがあることから、意見のあった地権者組合などの設立も含め、適切な対策をお願いしたい。
- (3) 吉田の里地里山の自然学習のお手伝いをボランティアでできればという夢を抱いているので、何かお役に立てるようなことあれば、声を掛けていただけるとありがたい。
- (4) 印西地区の全住民に、地域振興策の展開を含む次期中間処理施設整備事業は地域活性化の起爆剤であり波及効果が印西地区全域に広がることを理解していただく必要がある。せっかく素晴らしい答申書がまとまったのに、絵に描いた餅で終わってはいけない。印西市の市長、関係部署及び市議会の理解と手腕に期待している。また、できるだけ国県の財政的支援を受けられるような知恵出しも期待している。
- (5) 吉田区は過疎化が進み若い人がどんどん外に出ていることから、地元の住民達はいかにこの吉田区を維持していくかについて、日頃から本当に危惧している。吉田区は旧印旛村時代から行政区域の端に位置していることから、「自分のことは自分でしないと何ともならない」という気持ちが歴史的に脈々と受け継がれている。よって、今回、地域として次期中間処理施設整備事業を逆にチャンスと捉えたのだと思う。委員の皆様が「検討委員会に参加して本当に良かった」と思っただけのような素晴らしい地域振興策を展開したいと心より考えている。
- (6) 答申書にまとめた地域振興策のアイデアは断片的なものだが、うまく有機的な結合ができれば、事業そのものが意思決定力を持つものに育つのではないかと期待をしている。
- (7) 意見があったように、地域振興策のアイデアはエレメントとして多く抽出されたが、今後、一つの有機体にきちんとつくり上げていく必要がある。また、土地の所有は大別すると個別所有と共有の2つだが、実はその中間が色々ある。代表的なものとして総有（コモン）が挙げられる。この考え方は人口が減る社会の中、都市も農村も関係なく必要になると思う。総有はコミュニティーによる地域の土地のマネジメントをいかに上手に進めるかが問われるが、昔の入会地のような総有は現代ではうまくいかないの、いかに上手に近代化するかが実は大きな課題となる。今後は、何をするのか検討することも重要だが、以前説明した3ポイントアプローチ（デザイン・スキーム・ビジネス）の内、スキームの部分も重要となる。つまり、どういう所有関係、どういう資金状態、どういうやり方で事業を進めるかという点である。吉田区では上手に事業を進めていただけたと思うので、今、我が国が地方創生など色々な形で直面している問題のパイオニアになるのではないかと期待している。

7. 閉会

※ 傍聴者 : 5名

